

# 1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成21年10月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2872100322		
法人名	グループホームのじぎくの里		
事業所名	社会福祉法人のじぎく福祉会		
所在地	兵庫県高砂市北浜町西浜 773-3 (電話) 079-247-9206		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成21年8月25日	評価結果確定日	平成21年11月16日

## 【情報提供票より】 (21年7月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成	15年	9月	15日			
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9	人			
職員数	11人	常勤	3人,	非常勤	7人,	常勤換算	8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	5階建ての	4階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000	円	その他の経費(月額)	15,000	円
敷金	(有) (200,000円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) (無)	円	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		1,000	円	

### (4) 利用者の概要 (7月5日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	5	要介護2	3			
要介護3	1	要介護4	0			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	88歳	最低	81歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	順心病院・井野病院
---------	-----------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に恵まれた施設の周辺は地域住民の散歩コースになっており、散歩の際に気軽に立ち寄りられたり、施設の見学者・来訪者も多く地域の方との交流が自然な形で行われている。施設理念に基づき利用者一人ひとりが地域の中で、役割を持ち自立を目指しながら、家庭的な環境の下で安心して自由に伸び伸びとした日常生活が送れる介護を提供している。家族の面会も多く、面会時に職員から声かけを行い、身体状況・日常生活の様子を説明している。また、日常、共に過ごす中でご利用者の思いを大切に、利用者一人ひとりにとって現状の暮らしが適切であるかを職員間で話し合い行き届いた支援が行われている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	評価結果を基に改善項目は把握し改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	外部評価については、管理者・職員は評価の意義を理解し、自分たちの実施している日々のケアの振り返りの機会と捉えている。今年度の自己評価についても職員の意見を取り入れ管理者がまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	計画的に運営推進会議参加の呼びかけを行っている。委員には事前に日程を調整し案内書を送付している。会議では、施設の状況報告・家族からの意見、情報交換などの内容で実施している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族面会時職員から声かけをおこない、話しやすい雰囲気作りに配慮し、意見・要望を聞いている。面会の機会が少ない家族には随時の電話連絡により意見・不満・要望等を聴くように努めている。家族会は年3~4回開催しているが、参加者は多い。個別面談の要望も多くその都度丁寧に応じている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	施設の周辺はウォークラリーのコースになっており、施設の見学者も多く来訪者には施設の説明をしている。夏・秋の祭り・敬老会・体操に参加し地域住民との交流の機会となっている。フラダンス・お話・おりがみボランの受け入れも行っている。月一回集会所で「よろず相談」を開いている。

## 2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との連携が含まれた法人理念を基に地域との交流を実践しているが、昨年から地域との交流を言葉として入れ、事業所理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホールの見えやすい場所に掲示し、職員も理念を理解している。また、ミーティングの際に理念について確認し日々の業務に反映させている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の散歩コースになっており、散歩の際に気軽に立ち寄られ、地域の方との交流が自然な形で行われている。また、施設の周辺はウォークラリーのコースになっており、施設の見学者も多く来訪者には施設の説明をしている。夏・秋の祭り・敬老会・体操に参加し地域住民との交流の機会となっている。フラダンス・お話・おりがみボランの受け入れも行っている。月一回集会所で「よろず相談」を開いている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価結果を基に改善項目は把握し改善に取り組んでいる。外部評価については、管理者・職員は評価の意義を理解し、自分たちの実施している日々のケアの振り返りの機会と捉えている。今回の自己評価を作成した。今年度の自己評価についても職員の意見を取り入れ管理者がまとめた。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議参加の呼びかけを行っている。委員には事前に日程を調整し案内書を送付している。会議では、施設の状況報告・家族からの意見、情報交換などの内容で実施している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>のじぎくの里の法人全体の広報誌は市に送付している。必要時に連絡を取り問題解決を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	ほとんどの家族の定期的な面会があり、面会時に職員から声かけを行い、身体状況・日常生活の様子を説明し、日常生活場面の写真を同封した「お便り」も手渡している。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族面会時職員から声かけをおこない、話しやすい雰囲気作りに配慮し、意見・要望を聞いている。面会の機会が少ない家族には随時に電話連絡により意見・不満・要望等を聴くように努めている。家族会は年3～4回開催しているが、参加者は多い。個別面談の要望も多くその都度丁寧に応じている。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	混乱を防ぐために職員の異動は最小限になるように取り組んでいる。働きやすい職場環境づくりに配慮し、離職・異動はなく職員の勤続年数も永い。職員間の連携も良く、個々のケアが十分行われている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	年間研修計画に基づいた、グループホーム独自及び併設全体の研修も実施している。また、外部研修の案内を回覧して参加を奨励しており勤務調整・研修費・交通費も支援し、働きながら学べる環境づくりが出来ている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会の会議に管理者が参加し意見交換会を行っている。他施設との職員間の交流もあり、グループホームへ見学など行っている</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者が安心して利用開始が出来るように、担当ケアマネージャからの情報を把握し、グループホームで過ごす時間を段階的に長くしながら馴染みの関係を作り安心して利用できるように努めている。</p>		
<p><b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b></p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ご利用者の趣味・特技等、利用時の情報から、「できること」「興味のあること」を見極め、簡単な調理・食器洗い・テーブル拭く作業等日常的な自然な流れの中で職員と協働しながら行っている。職員は日々過ごす中で、常に人生の先輩として尊厳を大切に、見守り、声かけを行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常共に過ごす中でご利用者の思いを大切に、利用者一人ひとりにとって現状の暮らしが適切であるかを職員間で話し合い行き届いた支援が行われている。また、ご家族からの情報を基に本人の意志を汲み取るようにしている。</p>		
<p><b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の希望や要望を把握し、アセスメントを行い、担当者会議の中で解決すべき問題を話し合い個別の具体的な計画を作成している。介護計画を基に利用者一人ひとりの現状維持と自立を図っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員間で利用者の情報を共有し、担当者会議で話し合い定期的に利用者個々の現状に合った計画の見直しを実施している。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者のかかりつけ医への通院の同行、緊急時の受診同行・散歩等ご利用者・家族の希望に沿った個別の外出支援を実施している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の同行を行っている。適切な医療が受けられるようかかりつけ医に情報提供を行っている。緊急時の受診支援しており受診前に情報提供を行いスムーズな受診へつなげている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については家族と早期からの話し合いの機会を持っている。現在は重度化に対応する体制はないが、対応についての研修への参加は考えている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議の席で定期的に個人情報保護やプライバシー保護について話し合い、確認し合っている。ご利用者一人ひとりに適した親しみのある言葉かけで接し、人生の先輩として尊敬大切に、自尊心を傷つけることのないよう配慮されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余裕を持った予めのスケジュールはあるが、利用者一人一人の状態や要望に合わせて利用者一人ひとりが余裕を持って過せるように支援している。調理の手伝い・外出に関しては希望や体調に配慮し、利用者個々のペースに合わせて過せるよう支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と相談し、希望を聞き献立を立て季節感を取り入れるよう工夫しながら調理している。利用者の状況に合わせて一緒に調理している。職員も一緒に食卓を囲んで会話を楽しみながらゆったりと食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在夜間入浴の希望がないため実施していないが、希望の時間・曜日に入浴ができるように1日の入浴人数を少人数にしている。プライバシーに配慮しながら浴槽の外から見守り、事故予防を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが「できること」を把握し、役割・楽しみごと気晴らし出来るように配慮している。自分の思いを表現できない利用者には表情や仕草から感じ取り、楽しみごと気晴らしができるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	加齢と共に散歩の距離も短くなっているが、自然豊かな環境の中で季節感を味わいながら利用者の体調に合わせて散歩・外出の支援を行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することの弊害を理解し、夜間以外は玄関やベランダは施錠していない。利用者は自由に出入りしているが、利用者の出入りが分かるように事故予防のために玄関にセンサーがついており安全確保を行っている。		
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練とグループホーム独自の災害訓練を実施している。避難マニュアル・分担表も整備され、職員の緊急連絡網も作成されており緊急時にスムーズな対応ができる体制作りを行っている。地域との協力体制も整っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを取り入れた献立を作成している。献立を管理栄養士に見てもらい栄養バランスにも注意している。全利用者の体重測定を月1回実施し個々の栄養状態を把握している。水分摂取のチェック表を作成し脱水予防を行っている。利用者一人一人の摂取状況に合わせ食事形態にも配慮している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓から緑豊かな風景が見渡せる広いスペースの共用空間に、利用者が思い思いに過せるようにテーブル・ソファが置かれ、ゆったりとした家庭的な雰囲気になっている。フローアの一角にキッチンがあり利用者の様子を身近に感じながら職員・利用者が共に食事の準備・後片付けを行っている。広い廊下には、イスを置き少人数でゆっくりと過せるように配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から利用者が自宅で使い慣れた家具の持込を働きかけ、利用前の生活との違和感を感じさせないように配慮している。居室からも季節の移り変わりが感じられ、五感刺激となっている。		

は、重点項目。